

日本三大急流の一つ球磨川沿いに、南北に広がる球磨郡・球磨村。国道二一九号線、通称球磨川沿岸道路を走ると、九州山地が水墨画のようなたたずまいを見せる。緑深い山々に囲まれた

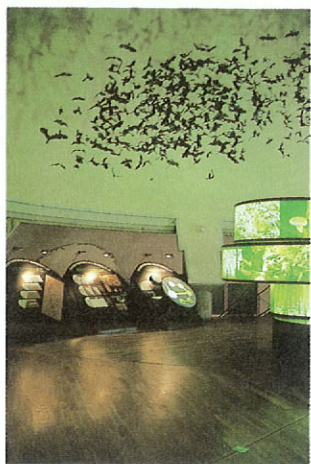
この村は、球磨川下りの終着点。カルスト台地の生んだ自然のドラマ・鍾乳洞をふとところに抱き、神秘的なロマンがあふれている。



ふるさと紀行

# ドキドキワクワク 自然を 探検する

球磨村



「森林館」エントランスホール

## 森を学ぶ 森林館

人吉方面に向って球磨川を右手に見ながら沿岸道路を走っていくと、濃い緑の中にえんじ色のドーム屋根が見えてくる。「森林館」である。国道から

球磨川へと下る急斜面に、七つのドームを組み合わせて建てられたこの建物。見る場所によってその数は四つ、五つと変わり、全てのドームが見える場所は森林館の周囲で一ヶ所しかないという。川に臨む斜面に建っているため、道路に面した入口が、実は三階に当たる。

中にはいると、高い天井から無数のコウモリの模型がぶら下がり、洞くつを連想させる。大きな窓から差し込む光で、明るいホール。多くのパネルや標本、ジオラマシアターなどを使って、自然のしくみ、森を育てる人たちの知恵や生活がわかりやすく、楽しく説明

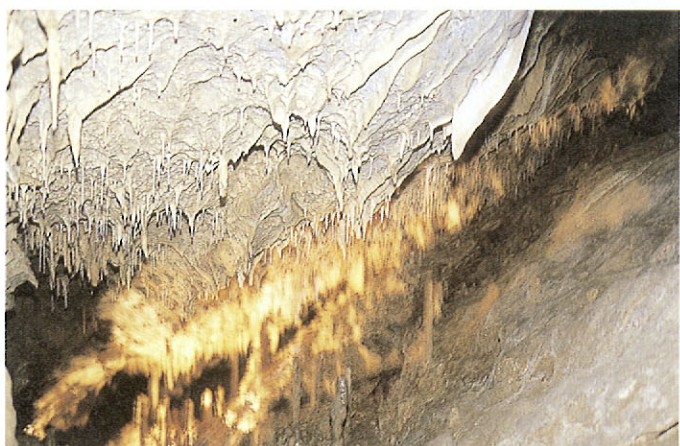
されている。中でも、子どもたちに人気があるのが、キツネやウサギのキャラクターのロボットが演じる「森の劇場」。大自然のしくみをゆかいな劇で見せてくれる。

いくつかの円で構成された各フロアの窓からは球磨川の清流と対岸の山々を眺めることができ、まさに雄大な自然を実感しながら学べるスペースである。

## 気分は探検家 球泉洞

森林館を出ると、道の向い側に日本で二番目の長さの鍾乳洞・球泉洞がある。石灰岩層が長い時をかけて浸食され、作り出された鍾乳洞。森林の地底に眠るドラマである。

今年になって、新しくファミリー探検コースがオープンした。ここに挑戦する前に、入口でヘルメットにヘッドランプ、カップ、長ぐつ、というスタイルに着がえる。そして、いざ入洞。細長いトンネルを通して洞へ出る。大きく口をあけた天然のホール。鍾乳石石筍、球磨川へ流れ出していくという地底川。異次元の世界のようである。球磨村森林組合の方に案内され、探検コースへと向う。自然の姿をできるかぎりそのまま体験できるようにと、照明がほとんどない。ヘッドランプで足元を照らしながら進む。「階段が急ですからね」。パイプ組みのステップに二歩踏み出すと、急どころではない。



球泉洞



球磨川の対岸から見た森林館

## 青空と緑の草原 譲葉牧場

球泉洞を後にして、球磨川を渡る。一勝地駅から、さらに山の上へと登っていく。頂上近く、左右に森林と草原がパノラマのように広がります。譲葉牧場だ。緑の草のすぐ上に広がる青い空。絶妙なコントラスト。草原を歩くと、吹く風もやさしい。空と草原の境界をめざして草を踏んでいくと、群青の空を呼吸できそう。心が広く、大きくなっていく。

球泉洞で自然の驚異的な力を感じ、譲葉牧場で自然のやさしさに包まれる。さまざまな自然の表情に出会い、触れる。球磨村の森は人をドキドキ、ワクワクさせる魅力にあふれている。



譲葉牧場